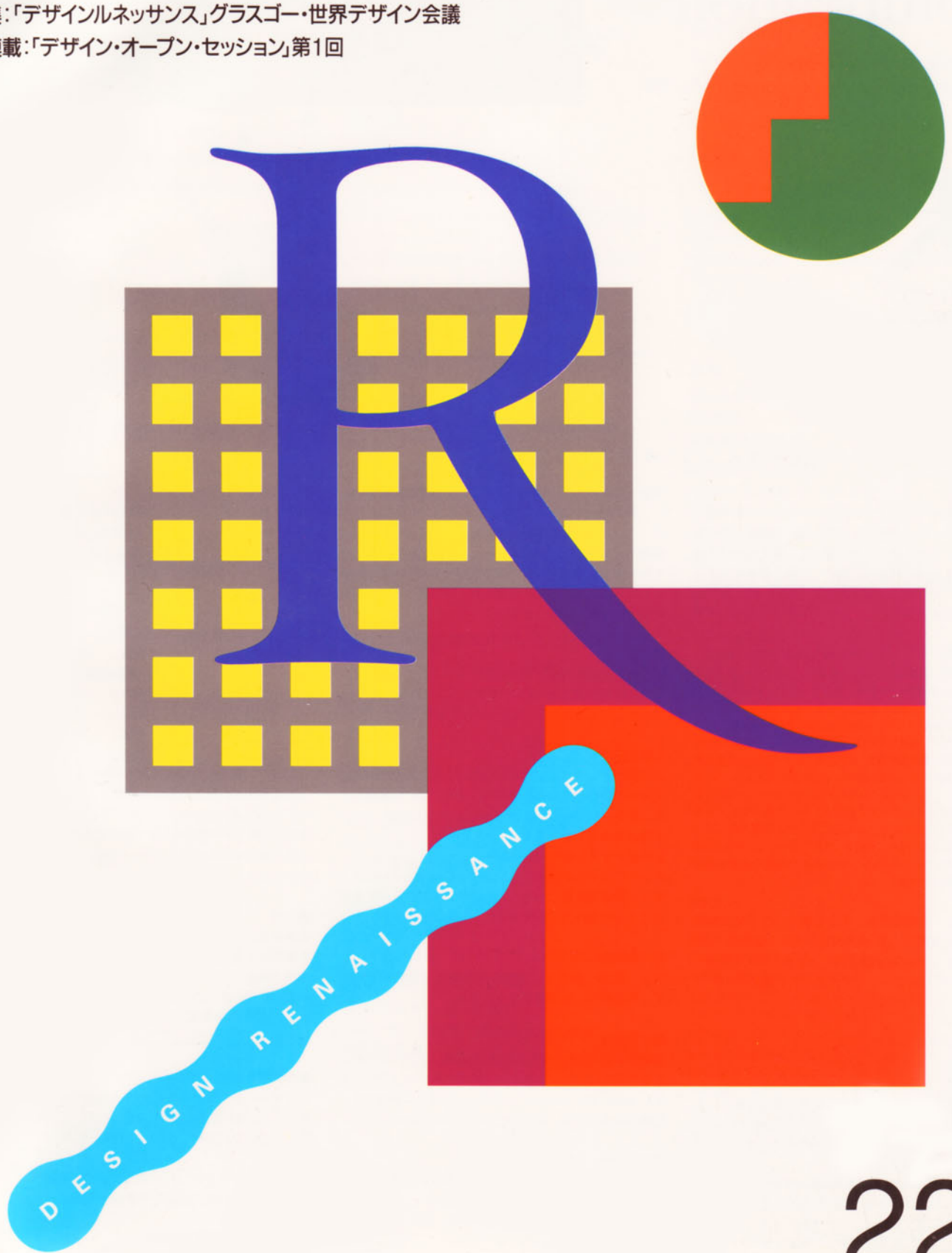
Magazine for Industrial Design

# Design News

Japan Industrial Design Promotion Organization

特集:「デザインルネッサンス」グラスゴー・世界デザイン会議
新連載:「デザイン・オープン・セッション」第1回




225

[最終回]日の出づる国のデザイナー

# デザイナーは電気林檎の夢を見るか?-酒井俊彦

パソコンを操るデザイナー達

とどまるところを知らない不況の嵐はウチの事務所にまで押しかけて(お招きしたわけでもないのに)、一か月程どっしりと腰を落ち着けている。この号が出るころまで滞在されてしまうと私が夜逃げしなければならなくなる。大変なことだ。世の中の方はもっと大変で、93年中は某家電メーカーのデザイナーは中庭の草むしりをやっているだの、某光学器メーカーは云十人のデザイナーをクビにしただの笑えるような笑えないような噂しか聞こえて来なかった。

一方、高効率化とより高品質なデザインの提供で不況の海を乗り越えるにはコンピュータしかない!と言わんばかりの大塚商会やTooの営業マン達にのせられた個人事務所ではパソコンの購入と引き替えにデザイナーの首切りが続発!(続発はいい過ぎかもしれない)。

そこまでして買うほどのもんか?というわけで、このコーナー最終回はIDにおけるパソコン活用例の紹介。

まずは、ワークファブリックの桐山智博氏。自宅でフリーのIDデザイナーをしている奥さんのためにパソコンを買ったのがきっかけで会社にも導入を勧め、現在3台のパソコンを使って作業を進めている。同社の導入目的は作業の効率化。パッケージデザインの場合、パソコンでの作業が日常的に定着した現在、時間、金、プレゼンテーションにおけるバリエーションの面で以前とは比べ物にならないほど成果を上げているという。写真の芳香剤もこの絵ができ上がった時点で、ボディの花柄はすでに版下として出力できるデータとして作られている。レンダリングに使うグラフィックデータは版下や、モデルに貼り込むインレタの代わりにも使え、修正も非常に簡単である。これは、たとえば時計のデザインのように文字盤などのグラフィック的要素が多い場合には非常に便利である。また、レンダリングに使った立体形状をそのまま三面図に落として寸法を入れることも、最近やっと実用に耐えるレベルで行えるようになった。IDもついにパソコンによる効率化の恩恵を受けられるようになったのだ。

さて、次はデザイン品質向上の手助けのためにパソコンを導入した例。ディコードの星野茂樹氏は画面上で立体的にモデルを作り、写真的なレンダリングを駆使して、質感や、異なった角度からの形状のチェックに役立てている。今までのプレゼンテーションの中の手で描くレンダリングがCGに変わったわけだ。プレゼンボードや、資料の製作にパソコンが活躍しているということだが、CGの製作にはそれ相応の手間がかかるので効率の面では歩が悪い。しかし、デザインの精度を上げるという点での働きに関しては満足しているようで、「自分のデザインがパソコンによって変わったとは思わないが、デザインアプローチに幅ができたのは確か。」とのこと。

星野氏の場合、プレゼンテーションのためというより、自分自身のデザインチェックのためにCGを描いているという側面が強い。写真のロボットは、関節の角度を色々動かした状態での検討案のなかの一枚である。

最後の写真は、手前味噌と思いつつ載せた私がデザインしたショールームのインテリア計画。インテリアデザインに関する専門知識が非常に乏しくても、CGがあれば少なくともクライアントへの意志伝達は円滑になる。これはコミュニケーションツールとしてのパソコンの可能性を示す一例である。効率を上げ、デザインのスキルアップができ、なおかつジャンルの壁を越える手助けもしてくれるパソコンは素晴らしい道具だ。だが、現時点ではそれはすべてのデザイナーにとって必要な道具というわけではない。パソコンはデザイナーの表現領域を広げるか?との質問に桐山氏は、「もしその人が一人で多くの物事を達成する能力に優れたデザイナーならイエス、逆に周りの沢山の人と協力してデザインを完成するタイプの人ならノー。」と答えてくれた。導入するしないは別にして、コンピュータが使えなければデザイナーではないなどという馬鹿げた強迫観念を捨てて冷静に判断することが、道具としてのパソコンを理解する近道のようだ。(完)



現在、3台のパソコンを使いこなしているワークファブリックの桐山智博氏による芳香剤。レンダリングのためのグラフィックデータを版下やインレタとして代用しているという。



筆者の酒井氏がデザインしたショールームのインテリアデザイン計画のCG画像。クライアントとのコミュニケーションツールとしてのパソコンの可能性を示す一例。



ディコードの星野茂樹氏の産業ロボット。手描きのレンダリングからCGへのシフトにより、それ相応の手間はかかるがデザインの精度は上がったという。